

大学史研究通信

第35号、2003年5月31日(土)

大学史研究会

第35号の内容：会員ニュース・新入会員ニュース・新入会員自己紹介・会員新刊ニュース・海外学会参加記・事務局からのお知らせ・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

会員ニュース

木村 靖二 会員

(所属変更) 大学評価・学位授与機構評価研究部
(東京大学大学院人文社会系研究科教授併任)

谷本 宗生 会員

(所属変更) 東京大学史資料室(専任室員)

新入会員ニュース

江津 和也 (ごうづ かずや) 会員

早稲田大学大学院 教育学研究科 博士後期課程

専門分野 日本教育史(近代日本における私立大学予科に関する研究)

藤岡 真樹 (ふじおか まさき) 会員

京都大学大学院 人間・環境学研究科 修士課程

専門分野 19世紀後半のアメリカ合衆国における大学院制度化の背景

原稿募集

『大学史研究通信』第36号は2003年7月31日に発行予定です。会員諸氏の現在の研究紹介、文献案内、会員主催の行事のお知らせなど、どのようなものでも結構です。皆様からの投稿を心よりお待ちしております。原稿提出・お問い合わせ等は『通信』編集担当の進藤までお願いいたします。連絡先は最終ページをご覧ください。

住所・所属変更届のお願い

住所や所属（昇任・学位取得も含む）に変更のある会員は『通信』編集担当進藤までご一報くださるようお願いいたします。教授・研究のために海外にご滞在予定のかたも、海外での連絡先をお教えいただけましたら幸いです。ご連絡は最終ページにあります、進藤研究室宛にお願いいたします。

『大学史研究通信』バックナンバー希望者に頒布いたします

『大学史研究通信』第14号～現在発行号まで希望者に頒布いたします。80円×部数＋郵送料（1部の場合90円、2部以上は120円）分の切手を同封の上、編集担当進藤宛までご請求下さい。ご連絡は最終ページをご覧ください。

編集後記

事務局員に加入していただいた杉谷祐美子さんのお名前が、通信34号では「裕美子」となっていました。ここにお詫びして訂正させていただきます。事務局員の顔ぶれがかわったことで、それぞれの会務担当を見なおそうという議論が事務局内でおこなわれています。

そろそろ秋のセミナーにおいて準備が本格化して参りました。会員のみなさまのご協力をお願いいたします。

（進藤修一記）

『通信』編集は事務局・進藤修一が担当しております。

連絡先〒562-8558 大阪外国語大学外国語学部 進藤 修一研究室内

TEL/FAX 0727-30-5355

EMAIL sshindo@post01.osaka-gaidai.ac.jp

sshindo@jnb.odn.ne.jp

『大学史研究通信』第36号は、2003年7月31日発行予定です。

史研究の理解のために教育（史）学も学ぼうと、学際的な研究・教育を掲げる現在の研究科に進学いたしました。

今後の研究の目的は、大学史をアメリカ史の文脈に位置づけることです。具体的な研究テーマは、19世紀後半のアメリカ全土で見られた大学院設立ラッシュの背景や、冷戦期のアメリカ大学の動向など、いろいろと興味を持っておりますので、まだひとつに絞ることができていない状態です。ですが、いずれのテーマにするかといえども、大学とアメリカ社会の動向との関連を問うような研究を目指したいと考えております。

なにぶん浅学菲才でございますので、大学史研究会に参加させていただき、会員の皆様方からさまざまな知見を得て、自己の研究に生かしたいと考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

編集担当者からのお願い

編集担当者より新入会員自己紹介をお願いしております会員の方々は、恐縮ですが原稿をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

会 員 新 刊 ニ ュ ー ス

- 1) B・R・クラーク（有本章監訳）『大学院教育の国際比較話』玉川大学出版部、2002年
- 2) 中山茂、吉岡斉共編著 『科学革命の現在史』学陽書房 2002年
- 2) 鳩沢歩（他・著）『経済史再考』思文閣、2003年
- 3) A・I・フローインスティン（福留東土他訳）『大学評価ハンドブック』玉川大学出版部、2002年
- 4) 八木紀一郎（他・編）『社会経済体制の移行と進化』（ゲネシス進化経済学Vol.2）、シュプリンガー出版社（東京）、2003年
- 5) Takutoshi Inoue（井上琢智・編）: W. Stanley Jevons, Collected Reviews and Obituaries, 2 Vols., with an introduction by Takutoshi Inoue and headnotes by Bert Mosselman, Bristol: Thoemmes Press, 2002.
- 6) 八木紀一郎（他・編）『図解雑学・資本主義のしくみ』ナツメ社、2003年

「会員新刊ニュース」情報提供のお願い

前号より「会員新刊ニュース」という項目を新設し、会員の研究活動の紹介を心がけておりますが、編集者の情報のみでは限界があります。新刊を発行されたご本人、あるいは会員が新刊を発行されたという情報を得られた方は、編集担当進藤までご一報頂ければ幸いです。

海外学会参加記

グ ラ ー ツ に て

中山 茂 (神奈川大学)

2002 年の 8-9 月にかけて私はオーストリアの第二の都市といわれるグラーツに滞在した。グラーツといえば、われわれ科学史の者にはすぐヨハネス・ケプラーの名とともに思い出す。私はここの「科学技術と社会」研究所の招きを受けたとき、たびたびヨーロッパに行っているが、この町を訪れたことがないので、すぐに引き受けた。

ケプラーはドイツの大学で学位を取ると、初めて就職したのがこの町なのである。町にはケプラーの名を冠するケプラー通りなど、いろいろあるが、ケプラーの資料が残っているわけではない。市の博物館にもケプラーのものがあつたが、他から借りてきて展示しただけである。というのは、ケプラーはプロテスタントで、この町にもプロテスタントが多かったが、藩侯はカソリックになって、プロテスタントを追い出しにかかったので、ケプラーも追われたのである。

そのかわり、17 世紀にジェスイットのカレッジが出来て、その建物は今も残っている。ただ、今では工科大学の方が有名で、それを中心として人文系と芸術系大学とを配する。町は中央部の古い狭い地域を保存していて、交通規制されていて、あまり車を入れない。ハプスブルグの大きな武器庫がそのまま保存してあるのは見物。

研究所は大学総合利用研究所で、奨学金を出して主に東欧系の大学院生に学位論文を書かせている。また、夏に一週間近くの古城跡のホテルで夏の学校を行ない、50 代くらいの研究者を講師に招き、大学院生が自分の研究成果を報告するという会をやっている。どうやら、「科学技術と社会」という分野で、このグラーツは場所的にはハンガリーやスロヴェニアに非常に近いし、東欧の中心になろうと意図しているようである。

なお、私がグラーツで一番印象に残ったことは、研究所の世話で女子修道院に泊めてもらったことで、テレビなし、電話なしのまことに静寂な生活であった。そのうち一週間は無言の行に付き合わされた。

2003 年度大学史研究セミナー自由報告者募集

『大学史研究通信』第 33 号ですでお伝えしましたように、第 26 回大学史研究セミナーを以下の場所・日時にて実施いたします。

場所：関西学院大学（西宮キャンパス、兵庫県西宮市上ケ原 1 番町 1 番 155 号）

日時：2003 年 11 月 22 日（土）・23 日（日）

つきましては、会員の自由報告者を募集いたします。2003 年 7 月末日までに事務局セミナー担当福石賢一事務局員までご連絡ください。

連絡先は以下の通りです。

807-8586 北九州市八幡西区自由が丘 1-1

九州女子大学文学部 人間文化学科 福石 賢一 宛

Tel.093-693-3335（直通）

Fax.093-693-3361（学科共通）

E-Mail: fukuishi@kwuc.ac.jp

退会者の報告

以下の会員の方が退会されました。長い間本会の活動にご協力賜りまして、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

退会者：綾部 広則 会員・塩崎 千枝子 会員

報告した。参加者はミュンヘン、ザールブリュッケン、フライブルク、フライブルク、ドレーズデン、グライフスヴァルト、ボーフムなどの大学のアルヒヴァール約 70 名であった。大学史、とくに式典大学史は一般に体制の歴史であるとされているが、反体制の立場からの大学史の刊行や記念式典の例について議論があり、きわめて印象的であった。次回の全国大会は 2004 年 3 月同じく旧東独地区のポツダム大学において開催の予定と聞いている。

事務局からのお知らせ

2003 年度 年会費納入のご報告

2003 年度年会費につきまして、5 月 30 日現在にて、86 会員（機関会員も含む）からの納入をたまわりました。会員各位のご理解、ご協力に厚く御礼申し上げます。

年会費の納入がまだお済みでない場合は、下記大学史研究会口座宛にお振込みくださいますようお願い申し上げます（2003 年度会費 5000 円。院生・学生会費 3000 円）。

年会費納入に関し、ご不明の点は事務局・会計までお問い合わせ願います。

年会費払込先

郵便振替口座 大学史研究会 口座番号 00120-3-47583

または

銀行口座 「大学史研究会」 三井住友銀行 池袋東口支店
普通口座 （口座番号 3456109）

（文責：事務局会計担当 大川 一毅）

第三回ロシア連邦歴史教育実績調査会議に出席して

木村 靖二（大学評価・学位授与機構）

今年の 3 月 22 日から 3 日間、サンクトペテルブルクのゲルツェン国立大学で表題の会議が開催された。この会議は現在のロシア連邦の歴史教育に関するもので、直接大学史に関係するものではないが、会員諸兄姉にとって何かの参考になるかと思い、会議の内容や日本との関わりについて簡単に紹介してみたい。

会議はヨーロッパ評議会（Council of Europe ユーロッパ審議会という訳もある）教育部のプロジェクトの一つ「多文化社会と国境地域における歴史教育」の一環で、ロシア連邦教育省と協力して、ロシアの国境地域、多民族地域において隣接国家や他民族の文化・歴史についての相互理解を深める教育、それを促す教科書や副読本を広めることを目指している。ロシア各地の代表のほか、民族共和国の教育相も何人か参加していた。日本はヨーロッパ評議会のオブザーバーで、国内の窓口は国際教育情報センターが引き受けていて、センターはこのプロジェクトに協力して、すでに 2 度日露歴史教育セミナーを主催してきた。今回は、その成果としてセンターの支援の下に製作されたロシアの極東地域向け副読本『日本の歴史と文化』が出版されるので、日本からも代表の派遣が要請されたのである。

これまで、この活動に協力してきたのは会議にも出席された中央大の鳥海靖教授など日本史の方々であったが、以前センターと多少縁を持った私にもお誘いがあり、その資格がないことを申し訳なく思いつつ、よい機会を与えられたと便乗したものである。会議では二つのことがとくに印象に残り、私には非常に有益であった。ひとつは、日本ではいささか影の薄いヨーロッパ評議会教育部の活動の現状を知ることができたことである。教育部は近年では各国の歴史家を集めて『20 世紀の教え方』とか『歴史の乱用』といった歴史教育向けのシンポジウムを組織して、それを出版するなど歴史教育にかなり力を入れていて、たとえば後者には日本でもよく知られた史学史のイッガース教授の報告も載っていた。日本ではドイツ＝ポーランド間の歴史教科書協議などがよく紹介されているが、ヨーロッパ評議会の活動は、あまり知られていないのではあるまいか。二つ目は、副読本の完成に見られるロシア側の熱意である。会議の初日にできたばかりの副読本を手渡されたが、ふんだんにカラー写真をちりばめ、現代日本の人々の生活の紹介を導入に、日本の歴史、日ロ関係史を手際よくまとめていて、日本側の協力の成果もうかがえる見事なできばえで大いに感心した。

もっともそれだけに、日本からの支援で1000部作成できたが、極東地区だけで5000部は必要なのだが、と申し訳なさそうに語ったウラディオストックの代表の言葉はいささか胸にこたえたが。

国際シンポジウム「日本法の近代化とオーストリアの影響」

瀧井 一博 (神戸商科大学)

去る2003年3月20日と21日、オーストリアのウィーンにおいて、国際シンポジウム「日本法の近代化とオーストリアの影響」が開催されました。この催しは、筆者がウィーン大学法学部法制史研究室のヴィルヘルム・ブラウネーダー教授と共同で企画したものです。19世紀後半から20世紀初めにかけて、ウィーンの地では幾多の重要な学問的成果が生み出されました。社会科学、人文科学の分野においても、メンガーの近代経済学、マッハの科学哲学、フロイトの精神分析学、ヴィトゲンシュタインの論理実証主義哲学といった名がたちどころに浮かんできます。法学の分野も例外ではありません。ローレンツ・フォン・シュタインの国家学、ハンス・ケルゼンの純粋法学、オイゲン・エールリッヒの法社会学はいずれもウィーンの地で成立ないし展開されたものでした。そして興味深いことに、これらウィーンの法学・国家学は、同時代の日本に常に大きな刺激を与えてきました。このことをブラウネーダー教授にお話し、いつかこのテーマで日本とオーストリアの研究者に呼びかけ、シンポジウムを開くことを打診したところ、教授も大きな関心を示され、是非実現させようと仰ってくれました。それが今回の催しの発端です。

今回のシンポジウムの内容は、以下の通りです。20日：瀧井一博（神戸商科大学）「ローレンツ・フォン・シュタインと明治日本の立憲国家化」、マンフレート・ヴェラン（ウィーン農業大学）「立憲国家としてのオーストリア」/ 大石眞（京都大学）「ヨハン・クルメツキーと日本における議会制度の成立」、ヴィルヘルム・ブラウネーダー（ウィーン大学）「中央ヨーロッパの議会制度」/ 高田篤（京都大学）「ハンス・ケルゼンと日本の憲法学」、テオ・エーリンガー「変遷するハンス・ケルゼンの意義」

21日：上田理恵子（熊本大学）「フランツ・クラインと大正期日本の民事訴訟改革」、ヴァルター・レヒベルガー（ウィーン大学）「ヨーロッパの法発展についてのフランツ・クラインの意義」/ 大中有信（法政大学）「日本民法学に与えたオーストリア社会主義法理論の影響」、ゲラルト・シェーブファー（グラーツ大学）「メンガーとレンナーの社会主義法理論」/ 赤松秀岳（熊本県立大学）

「日本におけるエールリッヒ受容と日本の法社会学・民法学」、マンフレート・レービンダー（チューリッヒ大学）「ヨーロッパ法学にとってのエールリッヒの意義」

会場は、20日がオーストリア国会議事堂、21日はウィーン大学法学部でした。20日にはシンポの合間に国会のツアーも行われ、かつての大多民族帝国時代の議場も見学でき、往時が偲ばれました。

シンポの成果は、今年度中にPeter Lang社の『法学社会科学叢書 (Rechts- und Sozialwissenschaftliche Reihe)』の一冊として公刊される予定です。

ドイツ文書館員（アルヒヴァール）協会第8部門 2003年度大会

早島 瑛（関西学院大学）

ドイツ連邦共和国の各地に設置されている文書館（アルヒーフ）のスタッフ（アルヒヴァール）は全国組織として「ドイツ文書館員協会」(Verband deutscher Archivare)をもっているが、その第8部門が「大学アルヒーフ部門」、正確には「大学アルヒヴァール部門」である。正確には、第8部門は、大学アルヒーフのアルヒヴァールだけではなく、ドイツ各地にあるアカデミーのアルヒーフのアルヒヴァールを含む。

この第8部門は1年に1回、全国大会を開催して活発な研究活動を行なっている。わが国の「大学史研究会」や「全国大学史資料協議会」に類似しているが、決定的に異なるのは、会員が専門職試験に合格した専門職としてのアルヒヴァールであることである。

1990年のドイツ統一以降、この第8部門の全国大会は原則として旧西独地区と旧東独地区で交互に開催されてきた。ことしは旧東独地区のライプチヒ大学において、3月18日から20日まで開催された。ライプチヒ大学は、『大学史研究通信』第30号の「ライプチヒ大学のマトリッケル編纂事業」で触れたように、2009年の創設六百周年を目前にして、目下、1809年から1909年までの100年間分のマトリッケルの編纂作業を行なっているが、この関係から、大会のテーマとして「大学史の史料」が選ばれた。大会では、会員による報告とは別に、客員講師としてロモノソフ大学（モスクワ）のアンドレーエフ博士(Dr. Andrej Andrejev)とプラハ大学のシュヴィッペル博士(Dr. Jindrich Schwippel)、それに筆者が招聘され、アンドレーエフ博士は「モスクワ大学史の史料と創設記念式典の歴史」について、シュヴィッペル博士は「プラハ大学史の史料」について、筆者は「ドイツの商科大学に関する史料とディプローム試験合格者」について

新入会員自己紹介

江津 和也 会員

このたび大学史研究会に入会させていただくことになりました江津和也です。早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程に在籍し、日本教育史を専攻しております。テーマは、近代日本における私立大学予科に関する歴史的考察です。

研究対象とする大学予科は、1918（大正7）年の大学令によって現れた制度類型であり、私立大学や一部の官公立大学に設置され、高等学校・高等科（旧制高校）とともに大学予備教育をおこなう教育機関でした。大学予備教育に関する研究をみると、旧制高校についてはある程度の研究蓄積がありますが、大学予科、特に私立大学予科に関しては研究があまりなく、ほぼ未開拓という状況です。私は、戦前における私立大学の実態を把握するためには、その予備教育を行っていた大学予科にも着目する必要があると考えています。現在は、活字にはなっていませんが、大学令によって大学を設立した私学が大学予科を、どのような構想で設置したのかについて考察をすすめています。今後、私立大学予科についてさまざまな側面から研究し、蓄積することで、戦前日本における私立大学の教育実態について明らかにしていきたいと考えています。

大学史研究会は、教育学、歴史学、法学、科学史など、さまざまな分野の研究者が集い、議論を重ねたことにより、大学・高等教育史研究の水準を飛躍的に高める役割を担ったと伺っております。私自身も今後、会員として、さまざまな分野の研究者から刺激をいただき自分自身の研究を深めていきたいと思えます。ご指導、ご助言、よろしくお願いいたします。

藤岡 真樹 会員

京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程1年に在籍しております藤岡真樹と申します。今年度より大学史研究会に参加させていただくことになりました。この場をお借りいたしまして、恐縮ではございますが、自己紹介をさせていただきますと思います。

私は学部時代、文学部の西洋史研究室でアメリカ史を専攻し、卒論ではハーバードの大学院設立の背景について研究いたしました。その際に感じましたのは、従来の歴史研究、わけでもアメリカ史研究において、大学はほとんど研究の対象とされてこなかったということです。一方でアメリカの大学史研究は、周知のとおり、そのほとんどが教育学の立場からの研究に支えられてきました。このようなアメリカ大学史研究をめぐる状況を知るにつれて、私は歴史学の立場からアメリカ大学史を描いても良いのではないかという思いにかられるようになりました。そこで、学部からのアメリカ史の研究を続けつつ、従来の大学

大学史研究会事務局

〒562-8558 大阪府箕面市粟生間谷東8-1-1

大阪外国語大学外国語学部 進藤 修一研究室内 大学史研究会

TEL/FAX 0727-30-5355 EMAIL sshindo@post01.osaka-gaidai.ac.jp

大学史研究会事務局員（五十音順）

阿曾 沼 明裕（名古屋大学）
進藤 修一（大阪外国語大学）
橋本 鉦市（東北大学）
吉村 日出東（明治大学）

大川 一毅（早稲田大学）
杉谷 祐美子（早稲田大学）
福石 賢一（九州女子大学）